



仮想インフラストラクチャ マネージャ

- [仮想インフラストラクチャ マネージャ \(1 ページ\)](#)
- [vCenter の可視化の追加 \(4 ページ\)](#)

仮想インフラストラクチャ マネージャ

UIパス : [仮想管理 (Virtual Management)]>[仮想インフラストラクチャ マネージャ (Virtual Infrastructure Manager)]



- (注) Cisco Nexus Dashboard ファブリックコントローラの仮想マシンのネットワーク可視化機能が有効になっていることを確認します。

次の表では、[仮想インフラストラクチャ マネージャ (Virtual Infrastructure Manager)] ウィンドウに表示されるフィールドについて説明します。

フィールド	説明
[サーバ (Server)]	サーバー IP アドレスを指定します。
管理対象 (Managed)	管理対象または管理対象外のクラスタのステータスを指定します。
ステータス	追加されたクラスタの状態を指定します。
ユーザー (User)	クラスタを作成したユーザーを指定します。
最終更新時刻	クラスタの最終更新時刻を指定します。



- (注) **[更新 (Refresh)]** アイコンをクリックして、仮想インフラストラクチャ マネージャ テーブルを更新します。

次の表では、[アクション (Actions)] メニューのドロップダウンリストで、[仮想インフラストラクチャ マネージャ (Virtual Infrastructure Manager)] に表示されるアクション項目について説明します。

アクション項目	説明
インスタンスの追加	[アクション (Actions)] ドロップダウンリストから [インスタンスの追加 (Add Instance)] を選択します。詳細については、「インスタンスの追加」を参照してください。 (注) ルート上で同じ IP アドレスを設定していることを確認します。「ルート IP アドレスの設定」を参照してください。
インスタンスの編集	編集するインスタンスを選択します。[アクション (Actions)] ドロップダウンリストから [インスタンスの編集 (Edit Instance)] を選択します。必要な変更を行って、[保存 (Save)] をクリックします。[キャンセル (Cancel)] をクリックして、変更を破棄します。
インスタンスの削除	削除する1つ以上の必要なインスタンスを選択します。[アクション (Actions)] ドロップダウンリストから、[削除 (Delete)] を選択します。[確認 (Confirm)] をクリックしてインスタンスを削除します。[キャンセル (Cancel)] をクリックしてこの削除を破棄します。
インスタンスの再検出	再検出する1つ以上の必要なインスタンスを選択します。[アクション (Actions)] ドロップダウンリストから、[インスタンスの再検出 (Rediscover Instance(s))] を選択します。確認メッセージが表示されます。

詳細については、次を参照してください。

Cisco UCS B シリーズ ブレードサーバーのサポート

NDFC は、ファブリックインターコネクットの背後にある UCS タイプ B (シャーシ UCS) で実行されているホストをサポートします。この機能を使用するには、Cisco UCSM で vNIC の CDP を有効にする必要があります。



(注) デフォルトでは、CDP は Cisco UCSM で無効になっています。

参考のために、VMM-A と VMM-B の2つの VMM について考えてみましょう。Cisco UCS UCS B シリーズブレードサーバーの検出後、トポロジに青色の VMM-A と VMM-B がファブリックインターコネクット ノードであることが表示されます。トポロジの例を下図に示します。

UCSM で CDP を有効にするには、次の手順を使用して新しいネットワーク制御ポリシーを作成する必要があります。

1. USCM で、**[LAN]** を選択し、ポリシーを展開します。
2. **[ネットワーク制御ポリシー (Network Control Policies)]** を右クリックして、新しいポリシーを作成します。
3. **[名前 (Name)]** フィールド、にポリシーの名前を **EnableCDP** と入力します。
4. CDP の有効なオプションを選択します。

The screenshot shows a 'Create Network Control Policy' dialog box. The 'Name' field contains 'EnableCDP'. The 'Description' field is empty. The 'CDP' section has 'Enabled' selected. The 'MAC Register Mode' section has 'Only Native Vlan' selected. The 'Action on Uplink Fail' section has 'Link Down' selected. The 'MAC Security' section has 'Forge' set to 'Allow'. The 'LLDP' section is empty. There are 'OK' and 'Cancel' buttons at the bottom right.

5. **[OK]** をクリックしてポリシーを作成します。

新しいポリシーを ESX NIC に適用するには、次の手順を実行します。

- 更新された vNIC テンプレートを使用している場合は、ESXi vNIC の各 vNIC テンプレートを選択し、[ネットワーク制御ポリシー] ドロップダウンリストから EnableCDP ポリシーを適用します。
- vNIC テンプレートを使用していない場合は、更新されたサービス プロファイルテンプレートを使用します。各サービス プロファイルテンプレートに EnableCDP ポリシーを適用します。
- 1 回限りのサービスプロファイルを使用している場合（つまり、各サーバーが独自のサービスプロファイルを使用している場合）、すべてのサービスプロファイルに移動し、すべての vNIC で EnableCDP ポリシーを有効にする必要があります。

Cisco UCSM の詳細については、『[Cisco UCSM ネットワーク管理ガイド](#)』を参照してください。

ルータ IP アドレスの設定

IP アドレスを vCenter に追加する前に、Cisco Nexus ダッシュボードで同じ IP アドレスを設定する必要があります。

Cisco Nexus ダッシュボードでルータを設定するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [インフラストラクチャ (Infrastructure)] > [クラスタ設定 (Cluster Configuration)] を選択します。
- ステップ 2** [全般 (General)] タブの [ルータ (Routes)] カードで、[編集 (Edit)] アイコンをクリックします。
- [ルータ (Routes)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** IP アドレスを設定するには、[管理ネットワーク ルータの追加 (Add Management Network Routes)] をクリックし、必要な IP アドレスを入力して、[チェック (check)] アイコンをクリックします。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

ルータ設定は、次の 2 つのシナリオによって管理されます。

1. アプリケーションサーバーである vCenter の場合、通常は管理ネットワーク経由で到達可能です。
2. vCenter によって管理される ESXi サーバーと、K8s インスタンスや OpenStack インスタンスをホストするベアメタルサーバーは、ファブリックネットワークに直接接続されます。したがって、それらはデータネットワークを介して到達可能です。

vCenter の可視化の追加

[仮想的な管理 (Virtual Management)] > [仮想インフラストラクチャ マネージャ (Virtual Infrastructure Manager)] に表示される [アクション (Actions)] メニューのドロップダウンリストで、さまざまなアクションを実行できます。

手順

-
- ステップ 1** [アクション (Actions)] [インスタンスの追加 (Add Instance)] を選択します。
- [インスタンスの追加 (Add Instance)] ウィンドウが表示されます。

Add Instance

Select Type

vCenter

Virtual Center Server IP Address or Domain*

Enter a valid IP Address or Domain

Username*

administrator@vsphere.local

Password*

Cancel Add

- ステップ 2** [タイプの選択 (Select Type)] ドロップダウン リストから **[vCenter]** を選択します。
必要な IP アドレスまたはドメイン名とパスワードをそれぞれのフィールドに入力します。
- ステップ 3** [Add] をクリックします。
追加された vCenter クラスタは、**[仮想インフラストラクチャ マネージャ (Virtual Infrastructure Manager)]** ウィンドウで表示できます。
- ステップ 4** インスタンスを編集するには、必要な vCenter を選択して、**[アクション (Actions)] > [インスタンスの編集 (Edit Instance)]** を選択して、**[保存 (Save)]** をクリックします。
選択済みの vCenter クラスタのパスワードをアップデートし、ステータスを「管理対象」または「管理対象外」に変更できます。
(注) 管理対象外ステータスの vCenter クラスタの場合、ダッシュボードでトポロジと vCenter クラスタの詳細を表示できません。
- ステップ 5** 1 つ以上の vCenter クラスタを削除するには、必要な vCenter を選択し、**[アクション (Actions)] > [インスタンスの削除 (Delete Instance(s))]** を選択して、**[変更の確認 (Confirm changes)]** をクリックします。
(注) クラスタを削除すると、すべてのデータが削除されます。クラスタは、トポロジビューからも削除されます。
- ステップ 6** 1 つ以上の vCenter クラスタを再検出するには、必要な vCenter を選択して、**[アクション (Actions)] > [インスタンスの再検出 (Rediscover Instance(s))]** を選択します。
確認メッセージが表示されます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。